



笑顔いっぱい 夢いっぱい

郡山市立安積第三小学校
学校だより No.45
令和7年11月6日
文責:校長 酒井 健

◇青少年読書感想文郡山市コンクールで特選に輝きました。

第71回青少年読書感想文郡山市コンクールで特選に輝いたのは、安積三小5年生の
です。読書感想文のタイトルは、『「赤毛のアン」を読んで』です。今回の学校だよりは、
感想文をご紹介します。

さん
さんの

アンとは友達になれないだろうな。読み始めて感じたことです。性格がはげしくて、何でもはっきり話すアンは、私とは、かなりちがっているなと思いました。アンが気にしている赤毛をギルバードにからかわれた時には、石板で頭をなぐり、そしてどんなにあやまれても絶対に許さないがんこさ。そのことを先生に知られて、あやまるように言われてもいうことを聞かないがんこさ。赤毛や体型をバカにされたリンド夫人には、負けずに言い返す気の強さ。絶対私にはできないことだけれど、物語を読み進めていくうちに不思議とスッパリした気持ちになってきました。

どうしてこんな気持ちになるのだろう。アンが友達だったらドキドキすることばかりです。でも何だかアンは行動や発言が理解できるようになってきました。女の子はかみ型や顔、スタイルを気にするし、洋服やアクセサリもかわいいものが大好きです。アンも外見をととても気にしているし、おしゃれにもきょう味があります。だから、外見をからかう人に対して言い返すことは当たり前です。アンは、きれいな自然を見て感動したり、感じたままに湖や森、動物にも名前を付けたり、発想が豊かで、ロマンチックなところもあります。私と年れいが近いアンは、私と似ているところも多いと感じてきました。そして、アンのはげしい行動には理由があって、決してわがままや自分勝手、弱いものいじめのようなことではないということがわかってきたのです。

私は、自分の意見をはっきり伝えることが苦手です。まちがっていたらはずかしいな、だれかに言い返されたいやだなと思ってしまいます。また、すばやく判断することも苦手です。どうしたらよいか迷ってしまって、家族や友達に聞いてしまうことがあります。私にとってむずかしいことをアンは自然にできるし、私にはないものを持っているアンを少しずつ好きになってきました。そしてあこがれるようにもなってきました。まちがいをまちがっていると言える勇氣、自分がまちがっていないと思うことをつらぬき通す強い気持ち、自分がまちがっているとわかった時にあやまることができるすなおさ。絶対に友達になりたくないと思っていたのに、今は仲良くなりたい、親友になりたいと思うようになりました。

私は、この物語に登場する人が大好きになりました。アンをひきとったマッシュウとマリラ兄妹、親友のダイアナ、ライバルだったギルバード。みんな人を思いやり、相手を気づかう温かい心をもっています。そんな人たちの中で成長できたアンは幸せだったと思います。でもそれは、失敗をしても、いつも明るく前向きなアンだから周りの人たちも優しくなれたのだと思います。私も、アンのように、周りの人たちを明るく照らす太陽のようなそんなざいになりたいと思います。



←郡山市青少年読書感想文
コンクール「特選」
福島県青少年読書感想文
コンクール「佳作」
5年 さん
→郡山市児童作文コンクール
「佳作」
6年 さん



校長のひとりごと

自分が子どもの頃の思い出話です。私は小学校当時、虎丸町に住んでいました。近くには「原っぱ」があり、そこは、子どもたちの最高の遊び場となっていました。私も、野球をしたり、ブーメランを飛ばしたり、ローラースケートをしたり、缶蹴りをしたり……。そして冬場の遊びといえば「凧揚げ」です。どれだけ遠くに、高く飛ばせるか、友達と競争をしていました。たこ糸をつなぎ合わせて、どんどん遠くへ飛ばしていたことを思い出します。ある日のこと、友達と競争していたら、ぴつんと糸が切れて、凧ははるか彼方へ……。遠く遠くへ小さくなっていく凧……。その「原っぱ」には、現在はマンションが建ち並んでいます。今でも、その横を通ると、55年ほど前の「あの頃」が思い出されます。凧をなくし、しくしく泣きながら家に帰ったという、純粋な少年のお話でした。